

光西寺だより 第45号

海一味

発行所

大阪市平野区加美北1-25-1

光西寺

Tel 06-6754-6423

<http://www.oct.zaq.ne.jp/kousaiji>

「門徒式章について」

光西寺副住職 田中 咀積

お寺での行事や法要に参加すると、お参りされている方の中にお袈裟のようなものを肩から掛けておられる姿を見かけると思いますが、この法具は門徒式章という真宗門徒であることを表すしるしです。

門徒式章は僧侶が身につけている輪袈裟（わけさ）と形が似ていますが、よく見ると縫い目の位置や飾り紐などが違います。これらの違いはそれぞれの成り立ちと深い関わりがあり、門徒式章は江戸時代に男性の正装としてお寺で用いられてきた肩衣（かたぎぬ）や袴（かみしも）が、昭和の初めごろに洋服に似合う真宗門徒の礼装として現在の形になったといわれています。一方、輪袈裟は法事などでよく用いられる五条袈裟を簡略化したもので、得度をした僧侶のみが着けることができるお袈裟の一種です。

門徒式章の大きさや形状については規定がありますが、色や柄などはある程度自由

です。大きな法要の記念に制定されるものや、一般の寺院が独自にデザインしたもの、仏教婦人会や仏教壮年会、保育連盟のものなど様々な式章があり、これらは本願寺出版社や法衣店で買い求めることができます。

門徒式章を着用する上で気をつける点は、ほとんどの場合式章には本願寺派の「下り藤」などの紋が入っていますので、背紋があるのであれば向きが上下逆にならないように注意し、両胸の紋の位置がずれてだらしくならないよう垂らす長さを左右できちんと揃えるようにします。仏事の際には門徒式章とともにお念珠を忘れず威儀を正してお参りし、お手洗いでは必ず外して水が掛からないように気をつけます。また門徒式章を持参するときはなるべく式章入れを用いて、直接床に置いたりせず大切に扱うようにいたしましょう。

門徒式章をお持ちでない方は是非気軽に
お声がけください。お寺へのお参りには是非門徒式章を着用して頂ければと思います。
合掌



※正信念仏偈の意味を知ろう

正信…如来の言葉を信じる
(絶対に救う)

念仏偈…嬉しい時も悲しい時も
も唱える讃歌

*正信偈は親鸞聖人の著作であり、浄土真宗の立教のいわれを著わした「教行信証」の「行の巻」の最後に書かれているものです。

○必以信心為能入

ただ信心(しんじん)ひとつによると述べられた

○弘經大土宗師等

『無量寿經』の教えをひろめて下さった真宗の祖師がたは

○拯濟無辺極濁悪

すべての極濁(ごくじよく)の悪人を、かずかぎりなくお救い下さる

○道俗時衆共同心

出家者(道…どう)も在家者(俗…ぞく)も、一切の人々は共に同心に

○唯可信斯高僧説

ただよくこの高僧がたの説かれたことを信じなさい



年頭法要の案内

新しい年のはじめに

仏・祖に御挨拶を!!!

年頭法要のお知らせ

日時 一月 六日(日) 一時半より
当山副住職がご法話させて頂きます。

田中 咀釈 師

(法要のあとぜんざいをご用意しております。)

永代経法要のお知らせ

四月二十 日(土) 一時半より

二十一日(日) 一時半より

講師 兵庫県相生市

本願寺派布教使・慈眼寺住職

松田 義量 師



秋の法要 ご門主「ご親教」

【平成三十年十一月二三日】

去る十一月二二、二三日に本山の阿弥陀堂で「秋の法要（全国門徒総追悼法要）」が営まれました。住職はお参りすることができませんでしたが、以下『本願寺新報』の情報を紹介します。

その法要の後に、ご門主はご親教を述べられ、その中で「私たちのちかい」を示されました。

この「私たちのちかい」は、平成二八年十月一日の伝灯奉告法要の初日に示された「念仏者の生き方」の要点を四か条にまとめられたもので、中学生や高校生、大学生を始めこれまで仏教や浄土真宗のみ教えに親しみのなかった方々にも唱和していただきたいと示されたものです。

（以下の内容は、十二月一日付けの『本願寺新報』より引用させていただきます。）

私は伝灯奉告法要の初日に「念仏者の生き方」と題して、大智大悲からなる阿弥陀如来のお心をいただいた私たちが、この現実社会でどのように生きていくのかということについて、詳しく述べさせていただきました。このたび「念仏者の生き方」を皆様により親しみ、理解していただきたいという思いから、その肝要を「私たちのちかい」として次の四か条にまとめました。

私たちのちかい

一、自分の殻（から）に閉じこもることなく穏（おだ）やかな顔と優しい言葉を大切にします。微笑（ほほえ）み語りかける仏さまのように

一、むさぼり、いかり、おろかさに流されずしなやかな心と振る舞いを心がけます。心安らかな仏さまのように

一、自分だけを大事にすることなく人と喜びや悲しみを分かち合います

慈悲（じひ）に満ちみちた仏さまのよう

に
一、生かされていることに気づき日々精一杯（せいいつぱい）つとめます。人びとの救いに尽くす仏さまのよう

この「私たちのちかい」は、特に若い人の宗教離れが盛んに言われております今日、中学生や高校生、大学生をはじめとして、これまで仏教や浄土真宗のみ教えにあまり親しみのなかった方々にも、さまざまな機会に唱和していただきたいと思っております。そして、先人の方々が大切に受け継いでこられた浄土真宗のみ教えを、これからも広く伝えていくことが後に続く私たちの使命であることを心に刻み、お念仏申す道を歩んでまいりましょう。



お知らせ

光西寺玄関前に光西寺の名前が書かれた石柱（庵治石寺標）が完成いたしました。十月二十七日に報恩講に合わせてお披露目法要を致しました。



*津村別院で開かれた離郷門信徒の集いの記事が十一月十日の本願寺新報に掲載されました。



御礼

西村チカヨ様より人天蓋を寄贈頂きました。



法話と茶話会の開催日

一〇一九年	年回表
一周忌	二〇一八年 往生
三回忌	二〇一七年 往生
七回忌	二〇一三年 往生
十三回忌	二〇〇七年 往生
十七回忌	二〇〇三年 往生
二十五回忌	一九九五年 往生
三十三回忌	一九八七年 往生
五十回忌	一九七〇年 往生

平成三十一年

二月八日(金)

午後二時〜

仏教格言 仏の一言

深い悲しみを
苦しみを
通してのみ
見えてくる
世界がある
(平野恵子)